

高齢者の自律と健康寿命の延伸をめざした転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールの開発

鈴木 みずえ ● 浜松医科大学 特命研究教授・名誉教授



転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールのイメージ図

要旨

本研究の目的は、高齢者の転倒・骨折予防に関する可視化ツールとして、転倒予防の本来の目的を明確化し、各専門職種の実践のための具体的指標および多職種連携尺度を開発することである。各専門職の指標を抽出し、日本転倒予防学会の会員などに対して2回のデルファイ法で80%以上の適切性である評価が得られた。多職種連携尺度に関しても信頼性・妥当性が得られた。今後、本ツールを活用し、内容妥当性を明らかにすることで高齢者の自律と健康寿命の延伸を目指した転倒・骨折予防を推進されることが期待される。

地域医療貢献のポイント

わが国に暮らす高齢者の価値観や医療現場に合った転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールの開発を行うことで、転倒・骨折に関わる専門職種が多職種連携の状況を多面的・包括的に可視化して評価することを可能とする。さらに地域包括ケアシステムにおいて、特に高齢者・家族の意思を十分に尊重したQOL向上を目指した質の高い転倒・骨折予防の実現が可能となる。

【はじめに】近年、転倒・転落をめぐる裁判で医療・介護施設側の責任を問う判決が続いたことから、過剰な安全管理による身体拘束などが行われている。転倒・骨折予防対策は転倒の発生およびそれに伴う骨折などの外傷を未然に防ぐことを目的として、リスク評価・環境調整・身体機能向上・医療管理・教育などの包括的な取り組みである。しかしながら、転倒の発生ゼロを目指すあまり、行動や活動の抑制などが行われ、その結果、高齢者を要介護化させている。特に病院の治療優先の安全管理体制においては、高齢者の転倒予防対策は生活の質や健康寿命を考慮したものとは言い難い現状がある。転倒・骨折予防に関して高齢者の生活の質から検討するとともに転倒・骨折予防チームにおいても、各専門職の具体的方法や多職種連携の尺度を明らかにする。

なお、**転倒の定義**は、他人による外力、意識消失、脳卒中などにより突然発症した麻痺、てんかん発作によることなく、意図せずに人が同一平面あるいはより低い平面へ倒れることとする。

Kellogg International Work Group on the Prevention of Falls by the Elderly (1987)。

高齢者の転倒・骨折予防対策の目標

【高齢者の生活における主体性】

高齢者にとって転倒・骨折予防は、心身機能の維持・向上を行うことで高齢者が自律して主体的に生きるためのケアでもある

【高齢者とその家族のQOL】

様々なレベルにある高齢者とその家族がより良く生きるための生活の質の維持・向上を目指す

【高齢者の意思を尊重した対策】

高齢者の動こうとする独自の思いや生活様式に関係した転倒の原因やきっかけを探り、各々の心身機能状態に応じて高齢者が安全に移動できるよう、生活環境の調整、移動・移乗動作などのリハビリテーション、栄養・薬物療法、看護・介護等のケアを行い、骨折を含めた外傷を予防する

1. 目的と方法

本研究の目的は、転倒・骨折予防の目標、転倒・骨折予防に関する各専門職種の実践のための具体的指標を開発し、デルファイ法で内容妥当性を明らかにすることである。

2. 現状の成果・考察

2025年4月 から2026年3月まで以下の研究に取り組んだ。

① 転倒・骨折予防対策の目標・ポイントを明確化・作成

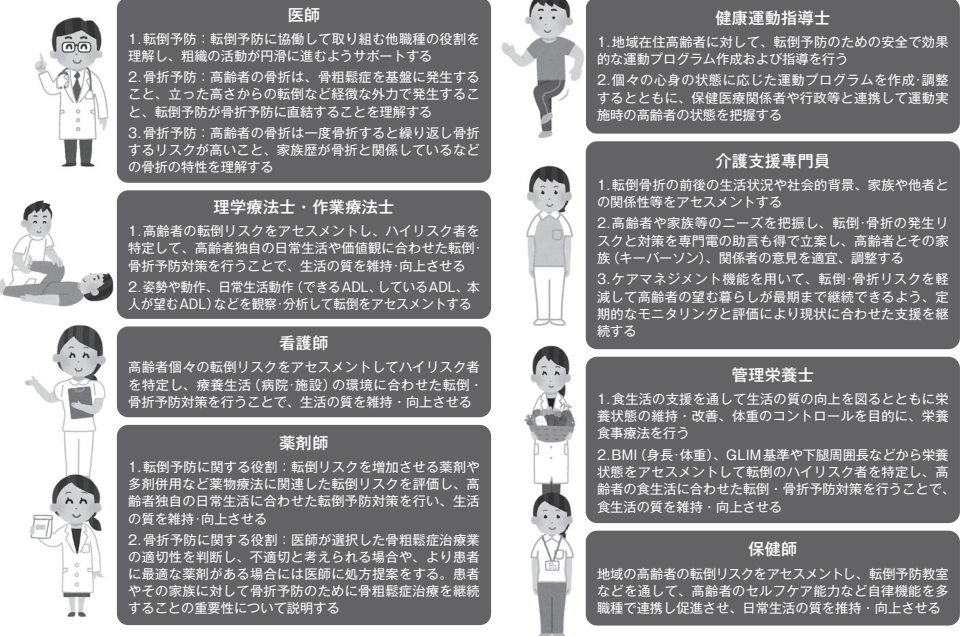
現状の転倒予防対策が転倒ゼロではない、個別のリスクの対策を検討して、生活の質を高める転倒・骨折予防を明確にした。転倒予防対策は、単に転倒の発生を予防することを目的とするのではなく、高齢者の意思を尊重し、望みが実現できることを目標に多職種チームで、本人の独自の思考や障害に合わせた個別のリスクの対策を検討して、生活の質を高める転倒・骨折予防を行うことが確認された。

② 転倒・骨折予防に関する各専門職の指標の開発

各専門職種(医師、看護師、理学療法士・作業療法士、薬剤師、管理栄養士、保健師、介護支援専門員、健康運動指導士)の実践のための具体的な指標を検討した。月1回の研究会議で検討するとともに、7月にプレテストのデルファイ法を実施して、各指標の項目の必要性や難易度の評価を依頼して、必要性が低い項目の削除や難易度の不適切な指標の修正等を行った。

デルファイ法調査：浜松医科大学研究倫理審査委員会承認後、2025年11月および翌

各職種の転倒・骨折予防に関する役割



年2月に日本転倒予防学会、日本骨粗鬆症学会、静岡県介護支援専門員協会などの会員を対象として、転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツール案をデルファイ法にて評価を依頼し、本ツールを検討した。専門家を対象としたデルファイ法の場合で推奨される70%以上の同意を得られた項目について、最終決定を行った。

③ 転倒・骨折予防に関する多職種連携尺度の指標の開発

静岡県内4カ所の総合病院の転倒・骨折予防チームにフォーカスグループインタビューを実施し、多職種連携尺度を開発した。内容妥当性を高めるために専門家パネルの検討をし、日本転倒予防学会学会会員を対象に信頼性・妥当性の検証を行った。

転倒・骨折予防のための多職種連携実践能力尺度

- 1 専門職としての態度・信念
- 2 多職種協働のスキル
- 3 転倒骨折予防チームの目標達成のための行動
- 4 高齢者・家族を尊重した治療・ケアの提供
- 5 多職種の凝集性を高める態度
- 6 専門職としての役割遂行

